


ふりがな 氏名	やました たつゆき 山下 達之	都道府県 京都府	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学環境サークル えこみっと ・京都大学フェアトレード推進サークル まなびやハチドリ 		
私のESD活動	京都というフィールドにおける、市民・企業・行政を巻き込んだ環境・フェアトレードの教育活動		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私が属する環境サークルえこみっとは主な活動が2つあり、その一つが、西日本最大の学園祭である京都大学11月祭における環境負荷の低減と環境意識の啓発です。具体的には10t以上生じるごみの分別・回収システムの構築や環境負荷の少ないエコトレイ使用模擬店の運営などを通して模擬店運営者や来場者の環境意識の啓発を図っています。もう一つの活動であるリサイクル市では、卒業生の転居にあたって不要になった家具を新入生に譲り渡す仲立ちをすることで、物を大切に使い続ける心を実物を通して伝えています。このように直接的でないながらも、ごみや家電といった「形のある」ものを通して、市民生活レベルにまで浸透してきた環境問題を再認識してもらう機会づくりをしています。

また、フェアトレード推進サークルまなびやハチドリでは、「騙されない消費者」から「賢い消費者」へと消費者教育の方針転換をねらう京都市の依頼により、未就学児とその母親をターゲットに、フェアトレード製品を使ったミサンガ作りのワークショップを行いました。またNGOのFAIR+のバックアップを受けて、高校生のための国際協力のイベントであるワン・ワールド・フェスティバル for youth へのブース出展を行い、高校生にフェアトレードが果たすべき役割について考えてもらう機会を提供する予定です。このようにこの団体の活動はあくまでグラウンドレベルに徹し、フェアトレードという難解な概念を、一つのミサンガや一杯のコーヒーに触れることで知ってもらうという発信の仕方を試みており、一方的な知識や価値観のトップダウンに留まらない能動的に感じとってもらう機会づくりを画策しています。

○「京都大学環境サークル えこみっと」 <http://kyoto-univ.eco.to/ecomit/>

○「京都大学フェアトレード推進サークル まなびやハチドリ」 <https://m.facebook.com/KUhachidori>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思えますか？

私が属する団体がメインフィールドとする京都市は寺社や文化財の多さ、所謂「京しぐさ」などから保守的、排他的であると想起されがちです。しかし、東京遷都以降、都市レベルの相対的な低下を懸念し続け、日本初の水力発電所建設や新幹線「のぞみ」の全列車停車を実現するなど、実は日本中のどの町よりも進取の気風と行動力を兼ね備えた町だと言えます。また「学生の町」と呼ばれるように、市民の1割を大学生が占め、学生団体の活動に寛容な地盤があります。さらに、門川京都市長が推進するソーシャルイノベーション構想により様々な活動が進行していますが、これらの活動はESDと通底するものがあるのではないかと思います。ですので、ESD活動を深化させるために、この京都という絶好のフィールドで行政や市民をも巻き込んだ活動を展開していければと考えています。